

授業作り	重点	前時のふりかえりや学習したことをもとに解決の見通しや自分の考えをもたせ、学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる問題解決型の授業づくりを行う。
環境作り		校内で共通した授業内掲示物を使い、言語や規則を守る環境を整え、タブレット端末を中心とした ICT 機器を活用することで授業の流れを視覚的に分かりやすく提示したり、児童が実物を映像で確認したりしながら学べるようにする。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・学習環境を整えることや、学習を進める上でのきまりを身に付けさせる。 ・学習の流れをつかみ、円滑に学習活動に取り組めるようにする。 ・学習内容の理解の保持に努める。	①学習用具を使う場面や使い方、話の聞き方などの視覚的な提示 ②「めあて」「かつどう」「たしかめ」「ふりかえり」の学習の流れの定着化 ③既習事項の確認を随時行うなど、日常の中での意図的な活用場面の設定
2 学 年		・学習規律を整え、話の聞き方を身に付けさせる。 ・文章を落ち着いて読み、問われている内容を理解する力を身に付けさせる。 ・計算力、書字力、語彙力を高められるようにする。	①担任の話や友達の話の聞き、自分なりの反応を示せるような指導 ②文章を言葉のまとまりで読めるような音読の継続指導 ③たし算やひき算の筆算や漢字の練習など、授業の隙間時間や家庭学習においてデジタルドリルを活用した反復練習
3 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果では、国語、算数ともに区平均、全国平均を上回っている。 ・国語、算数ともに基礎よりも応用問題の正答率が低くなっているが、それでも区平均および全国平均は上回っている。	・説明文を正しく読み取れるようにする。 ・既習の漢字や新出漢字を日常的に使用できるようにする。 ・繰り上がりのあるたし算と繰り下がりのある引き算を正確に解けるようにする。 ・多様な問題に取り組ませ、考えを深められるようにする。	①説明文の読み取り方の指導 ②授業時間内の新出漢字の指導時間の確保 ③宿題や朝学習の時間におけるデジタルドリルを活用した計算問題の反復練習 ④デジタルドリル等を活用した発展問題への取組等による応用力の向上
4 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果では、漢字の書き取りが全国平均を上回っている。一方、対	・日常的に辞書を引く活動などを通して、語彙力を高めていく。 ・毎日、小テストや補充プリントを家	①熟語や文の中での漢字活用の意識化による語彙力の向上 ②具体物の提示による立体の

	義語の問題は平均を下回っている。また算数では、四則計算の立式や基礎的な計算領域については全国平均を上回っている。一方、作図や立体の頂点の数などへの理解は平均を下回っている。	庭学習で行い、基礎基本の学力を伸ばすための学習習慣を身に付けさせる。 ・具体物を用いた丁寧な指導を行い、条件をもとに作図することへの理解や、立体の構成への理解を深める。	理解と作図指導の徹底 ③デジタルドリルの活用による基礎的な計算力の向上
5 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果では、国語は区平均・全国平均を上回っていた。算数は、区平均と同じ数値を示し、全国平均は上回っていた。 ・国語の領域では、「話すこと・聞くこと」「漢字の読み・書き」において、わずかなではあるが区の平均を下回っている。 ・算数は、「2位数・3位数のかけ算、割り算」「三角形の性質」「グラフの読み取り」「表の読み取り」「数の仕組み」について正しく理解する必要がある。	・問われている内容をしっかりと理解し、記述する力を身に付けさせる必要がある。 ・50字、200字と必要な文字数で書くことを苦手としており、習熟の必要性がある。 ・習熟の時間に繰り返し問題を解き、苦手となる前に、問題を解けるようにする必要がある。 ・様々な教科でグラフや表などの資料が出てきたときに、読み取り方を丁寧に指導する必要がある。 ・今後は位数が増えても正確に計算できるように指導する必要がある。 ・少人数コース編成を工夫し、既習事項を振り返りながら進める必要がある。	①ICT 活用等による課題提示の視覚化による問題内容の理解促進 ②授業内での各時間の確保による文章で表現することの意識化および習慣化 ③ICT の効果的活用によるグラフの読み取り学習の継続的指導 ④デジタルドリルの活用による基礎的な計算力の向上
6 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果では、国語・算数共に区平均・全国平均を上回っていたが、国語・算数の力を向上させる必要がある児童も多い。 ・国語の「話すこと・聞くこと」の「聞くこと」領域に課題がある。 ・国語の書くことや、算数の分数単元の内容を十分に理解させる必要がある。 ・算数の小数単元では、小数のかけ算・わり算は、全体的に苦手である。	・話し手の要点を捉えて思考する力を身に付けさせる必要がある。 ・漢字の書き取り学習を全員にまんべんなく定着させる必要がある。 ・算数の学習における二極化を改善するために、習熟度別指導を、単元に応じて活用する。 ・小数の計算では小数点の位置など丁寧に指導する必要がある。	①聞き手を意識した話し方の指導 ②ICT 等を活用した漢字の反復練習の習慣化 ③習熟度別を活用した学習内容や進度の精査 ④デジタルドリルの活用による基礎的な計算力の向上
特別 支援			